

背景・目的

旭川市内では移植栽培が一般的ですが、育苗に係る労力や資材費の削減が期待できる直播栽培について前年度に引き続き、当地での実施可能性を検討しました。

令和6年度試験の概要

- ・べたがけなどの低温対策が不要な時期（5月中旬以降）に播種
- ・欠株対策として密植栽培（株間を30cmから20cmに変更）を検証
- ・播種深（浅播き1.5cm、深播き3.0cm）を検証



浅播き区の欠株状況（6/13播種，7/18撮影）

結果

各試験区の耕種概要、各作期における収穫率及び規格内収量（花蕾径13cmを目安に収穫）

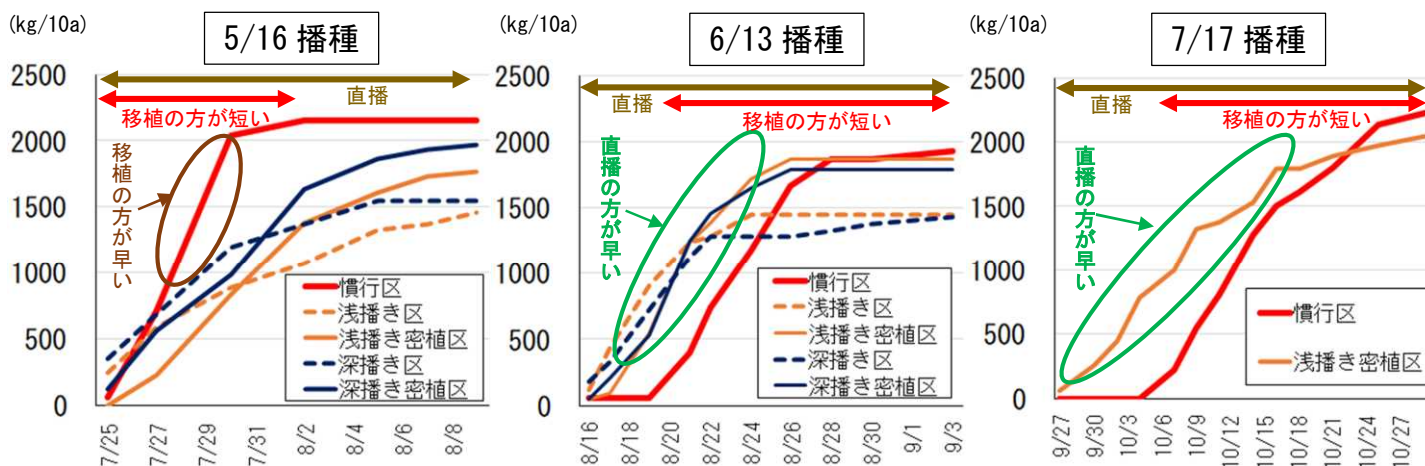
試験区名	作型	播種深 (cm)	株間 (cm)	栽植密度 (株/10a)	収穫率(%)			規格内収量(kg/10a)		
					5/16播種	6/13播種	7/17播種	5/16播種	6/13播種	7/17播種
慣行区	移植	-	30	4,762	100	95	100	2,152	1,926	2,221
浅播き区	直播	1.5	30	4,762	65	68	-	1,519	1,446	-
浅播き密植区	直播	1.5	20	7,142	55	63	63	1,761	1,868	2,045
深播き区	直播	3.0	30	4,762	60	63	-	1,541	1,431	-
深播き密植区	直播	3.0	20	7,142	63	56	-	1,967	1,785	-

※ 収穫率：作付株数（播種粒数又は定植苗数）に占める収穫株数の割合

※ 7/17播種の作期は、慣行区と浅播き密植のみの簡易調査を実施

慣行区（移植）が最も多収
密植区は慣行区の82～97%

収穫期間と収穫時期の比較～規格内収量（累計）の推移～



まとめ（直播栽培の特徴）

- ・収穫率は低いものの、密植で収量を補うことができる。
- ・生育差が生じやすく、移植栽培よりも収穫期間が長くなる。
- ・6月中旬以降に播種する作型では、移植栽培よりも生育が早い。
- ・浅播きと深播きの優劣は判然としない。環境に応じた調整を推奨

今後の課題

- ・生育初期の病害虫防除及び雑草管理の検討
- ・省力化及び低コスト化に係る効果の検証



収穫した花蕾（浅播き密植区）

結果の活かし方

当地に適した直播栽培を確立するための基礎資料として活用します。